

樋口一葉の世界二〇一七  
奥山真佐子 ひとりの芝居

一葉日記

そして

たけくらべ

演出 鈴木龍男



樋口一葉の代表作と、その当時の日記を和楽器の調べと共に

浄瑠璃



常磐津 和英太夫

三味線



常磐津 菊与志郎

お囃子



高橋 香衣

2017年

9月9日(土) 午後3:00開演



MITSUKOSHI  
三越劇場

〒103-8001 東京都中央区日本橋室町1-4-1  
日本橋三越本店 本館6階



三越劇場  
創立90周年

樋口一葉の世界2017

奥山真佐子ひとり芝居



原作 ◆ 樋口一葉 (1872年～1896年)

甲州市塩山出身の両親を持ち東京に生まれる。14歳で歌塾「萩の舎」に弟子入り。父の他界後、小説家として一家を支えるべく半井桃水に師事。19歳で処女作「闇櫻」脱稿。数々の小説を発表するが、生活の糧となるには届かず、下谷龍泉寺町に転居し商売を始める。10カ月足らずで店を閉じ本郷に戻るも、ここでの暮らしを題材に小説「たけくらべ」を発表、森鷗外、幸田露伴らに絶賛される。しかしながらその年の11月23日、肺結核により24年の生涯を閉じる。2004年11月、五千円紙幣の肖像となる。日本で初めての女性職業小説家。



一葉・美登利 ◆ 奥山真佐子

甲府市出身。文教大学文芸科卒。マキノ雅弘・山田五十鈴・金子信雄・丹阿弥谷津子に師事。一葉の原文に少々の注釈や工夫を加えることで、黙読では得られない一葉小説の世界を表現する活動を重ねて20年。2016年三越劇場一葉没後120年記念で行われた「ひとり芝居連続公演」で多大な好評を得る。NHK大河ドラマ「武田信玄」、朝の連続テレビ小説「あぐり」、黒澤明監督「まあだだよ」などに出演。舞台「生きてゆく私」御園座社長賞(演技賞)、一葉作品連続公演に対して「細うで繁盛記賞」受賞。NHK「夢見る葡萄」、「花子とアン」、「とと姉ちゃん」の山梨ことば指導を担当。ホームページ▶ <http://www.okuyama104.com/>

一葉日記  
そして  
たけくらべ

お囃子  
たかほしかえ  
高橋 香衣



第一回「世田谷区芸術アワード『飛翔』」音楽部門受賞。歌舞伎、囃子を堅田喜三久師(人間国宝)、堅田新十郎師、堅田喜久祐師、長唄三味線を柁屋五三吉師、柁屋五吉郎師に指導を受ける。

三味線  
ときわづ きくよしろう  
常磐津 菊与志郎



常磐津菊志郎に師事。二〇一三年度財団法人清栄会奨励賞受賞。歌舞伎公演・日本舞踊公演等に出演の他、パントマイムや舞踏、京劇、現代演劇との共演多数。

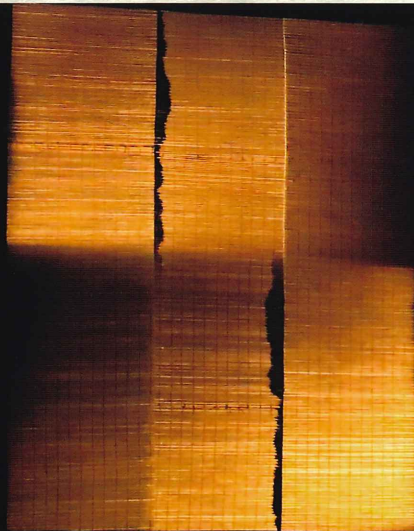
浄瑠璃  
ときわづ わえいだゆう  
常磐津 和英太夫



幼少より五代目常磐津和佐太夫に師事。平成二年より歌舞伎公演の演奏にも携わる。現在早稲田大学演劇博物館招聘研究員、聖学院大学および宇都宮大学講師。

演 出：鈴木 龍男  
所作指導：花柳 奈千穂 端唄指導：江戸小歌 市駒美  
美術：高田 潔 照明：須藤 実 衣裳：金子 龍子  
床 山：武川 卓男 美粧：浅利 悦子 舞台監督：TAKE4

[協力] 文京区法真寺 / 山梨県立文学館 / 台東区一葉記念館  
新宿あいえお / 甲州市塩山常泉寺 / 鎌倉市鶴木清方記念美術館  
東宝舞台(株) / (有)クライム・シンク / (株)アイロリ・コミュニケーションズ



遊郭の町に生きる子供達の心のふれあいを描く樋口一葉の世界  
大恩寺前に育つ子 おのずから二群に分かれ、表町なるは、ある  
公立小学校に通い、金貸しの子なる田中屋の正太郎を頭とす。  
横町なるは私立の育英舎に通い、鷹の頭の子・長吉が、龍華寺の  
僧侶の子 藤本信如を戴きて…ここに吉原遊郭の大黒屋の御職  
大巻が妹に美登利という美しき少女あり。(『めざまし草』より一部転用)

2017年  
9月9日(土)

午後3:00 開演  
(開場は開演の30分前)

三越劇場  
(日本橋三越本店 本館6階)

料金 6,000円  
(全席指定・税込)

ご予約・お問い合わせ

河佐井プロモーション  
TEL 03-6454-1955 (平日11:00～19:00)

いちまるよん  
FAX 0467-24-1900  
奥山真佐子ホームページ「お問い合わせ」欄 ▶



三越劇場【三越劇場の前売開始は 7月1日(土) 午前10:30～ 初日はお電話・インターネットご予約のみ】  
TEL 0120-03-9354 (10:30～18:30) | インターネットご予約 <http://mitsukoshi.mistore.jp/bunka/theater/>